

稚内高校

令和 8 年度シラバス

商業科 1 年

目次

1. 現代の国語	6. 体育	1 1. 家庭基礎
2. 地理総合	7. 保健	1 2. 情報処理
3. 数学Ⅰ	8. 音楽Ⅰ	1 3. ビジネス基礎
4. 科学と人間生活	9. 美術Ⅰ	1 4. 簿記
5. 英語コミュニケーション基礎	1 0. 書道Ⅰ	1 5. 稚内学

教 科	国語	科目	現代の国語	年次	1	単位数	2	必修
使用教科書	現代の国語（大修館）							
使用副教材	漢字とことば 常用漢字アルファ 五訂版（桐原書店） 評論速読トレーニング700（数研出版）							
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。			「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。	
評価の算出	上記の趣旨をふまえ、授業内を行う定期考査や課題確認テストを基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、定期考査やレポート、発表を基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、レポートや発表、ミニテストを基に評価を算出する。	
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容	①	②	③		
前 期	4	8	オリエンテーション／伝える・伝え合う／「水の東西」	○	◎	○	小テスト レポート	
	5	6	「『動』への変化」	◎	◎	○	レポート	
	6	7	「インターネット時代の音楽産業」	◎	◎	○	レポート	
	4		的確に伝える	○	◎	○		
	7	7	意見を示す／「自然と人間の関係をとおして考える」	○	◎	◎	レポート	
	8	3	魅力的に伝える 前期期末考査	○	◎	◎	発表 定期考査	
9	5	「空気を読む」	○	◎	◎	レポート		
後 期	10	5	「『個人』から『分人』へ」	◎	◎	○	レポート	
	11	8	「言葉についての新しい認識」	○	◎	◎	レポート	
	12	7	「白」	○	◎	○	レポート	
	1							
	2	4	主張を吟味する 後期期末考査	○	◎	○	発表 定期考査	
	3	3	考えを発信する・結論を出すために話し合う 考えを発信する・レポートを書く	○	◎	◎		
合計	70							
学 習 方 法 ・ そ の 他								
○書けない・読めない・わからない漢字や語句を見つけたら、必ず調べましょう。漢字や語句の知識は、文章を話す・書く・読むにあたって重要な力です。 ○基本的に、どの単元においても「自分の考え」などの文章を作成し、それを他者に伝える活動を行います。ここで培う力は、社会で生きるものとなります。 ○定期的に漢字や語句の小テストを実施します。日進月歩です。								

教科	科目	地理歴史	科目	地理総合	学年	1	単位数	2	必修	
使用教科書	地理総合（東京書籍） 新詳高等地図（帝国書院）									
使用副教材	地理総合ワークシート（東京書籍）									
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、社会的事象の地理的な見方・考え方を培い、グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。									
評価の観点	① 知識・技能				② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	地図や地理情報システムなどを用い、調査や諸資料から地域的・地球的課題への取り組みを理解することができるか。				地理に関わる事象の意味や背景を位置や分布・自然環境に着目し、多角的・多面的に考察し課題解決に向けて構想したり説明できるか。			地理に関わる諸事象についてよりよい社会の実現ができるよう課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養い、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さを深めることができたか。		
評価の算出	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。				・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・提出物 ・復習テスト 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前期	4	1	オリエンテーション							
		5	第1編1章 私たちが暮らす世界				◎	◎	○	
	5	6	第1編2章 地図や地理情報システムの役割				◎	◎	○	
	6	7	第1編3章 資料から読み取る現代社会				◎	◎	○	
	1		前期中間考査							
	7	4	第2編1章1節 生活文化の多様性と国際理解				◎	○	○	
後期	8	4	第2編1章2節 生活文化と自然環境①				◎	○	○	
	9	7	第2編1章3節 生活文化と自然環境② 4節 生活文化と産業				◎	○	○	
	1		前期期末考査							
後期	10	8	第2編1章4節 生活文化と産業 GLOBAL REPORT				◎	○	○	
	11	7	第2編2章1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題				◎	◎	○	
			3節 人口問題 4節 食料問題				◎	◎	○	
	1		後期中間考査							
	12	6	5節 居住・都市問題 6節 民族問題				◎	◎	○	
			7節 持続可能な社会の実現をめざして GLOBAL REPORT				◎	◎	○	
	1	4	第3編1章1節 日本の自然環境の特徴				◎	◎	○	
	2	3	第3編2節 さまざまな自然災害と防災				◎	◎	○	
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【授業】 *準備するもの：教科書・タブレット・地図帳・ファイル・色ペン（2色以上）を必ず持参してください。 *「教科書読み」「問題の出し合い」などペアワークを多く取り入れます。 *必要に応じてメモをしたり、教科書にマーカーを引いたりしてください。 *図表やグラフがたくさん出てきます。何を表している図表・グラフなのかしっかりと確認するようにしてください。 【定期考査】 *定期考査の成績不振（赤点）は30点未満を指し、30点以上であれば、成績不振の対象外となります。 *考査内容は、教科書と同じ内容の写真や図表・グラフを中心に出題します。授業のメモ、書き込みが重要になってきます。										

教 科	数 学		科目	数学Ⅰ（商業科）		年次	1		単位数	3		必修	
使用教科書	よくわかる 新編数学Ⅰ（第一学習社）												
使用副教材	新版 スタディ 数学A（第一学習社） 改訂版 Step By Step！ 新 高校の数学（数研出版）												
科目の目標	授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。												
評価の観点	① 知識・技能					② 思考・判断・表現					③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。					問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。					授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出	上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。					上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。					上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画									評価の重点			評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容						①	②	③		
前 期	4	9	中学校の数学の復習	数の四則計算					◎	○	◎	取り組み	
				文字の計算					◎	○	◎	取り組み	
	5	9	第1章 数と式	整式／整式の加法・減法／整式の乗法					◎	○	◎	取り組み	
				乗法公式の利用／因数分解					◎	○	◎	取り組み	
				展開・因数分解の工夫／実数					◎	○	◎	取り組み	
				根号を含む式の計算／不等式／不等式の性質					○	◎	◎	取り組み	
	6	12	前期中間考査						◎	◎	◎	定期考査、提出物	
				1次不等式の解法／連立不等式の解法					◎	○	◎	取り組み	
	7	6		絶対値を含む方程式・不等式					○	◎	◎	取り組み	
後 期			第2章 2次関数										
	8	6		関数／2次関数のグラフ					○	○	◎	取り組み	
				2次関数の最大・最小					○	○	◎	取り組み	
	9	12	前期期末考査						◎	◎	◎	定期考査、提出物	
				2次関数の決定					○	○	◎	取り組み	
	10	12		2次方程式の解					◎	◎	◎	取り組み	
				2次方程式の実数解の個数					◎	○	◎	取り組み	
	11	12		2次関数のグラフとx軸の共有点					◎	○	◎	取り組み	
				2次不等式					○	◎	◎	取り組み	
12	9	後期中間考査						◎	◎	◎	定期考査、提出物		
後 期			第4章 集合と論理										
	1	6		集合					◎	○	◎	取り組み	
				命題／証明法					○	◎	◎	取り組み	
	2	6		中学校の図形の復習					◎	○	◎	取り組み	
				後期期末考査					◎	◎	◎	定期考査、提出物	
3	6		中学校の図形の復習					○	○	◎	取り組み		
合計		105											
学 習 方 法 ・ そ の 他													
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができたら問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。													

教科 科		理科	科目	科学と人間生活	年次	1	単位数	2	必修		
使用教科書		高等学校 改訂 科学と人間生活（第一学習社）									
使用副教材		改訂 ネオパルノート科学と人間生活（第一学習社）									
科目の目標		自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。			観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究し、表現している。			自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度をみせている。			
評価の算出		定期考査・小テスト・提出課題・授業参加			定期考査・小テスト・提出課題・授業参加			小テスト・提出課題・授業参加			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前期	4	1	●オリエンテーション				○	○	○	授業参加・提出課題 授業参加・提出課題 定期考査 授業参加・提出課題 授業参加・提出課題 定期考査 授業参加・提出課題	
		5	●科学技術の発展				○	○	○		
		5	6	●材料とその再利用 [実験・観察] プラスチックの燃焼				○	○		○
	6	1	《前期中間考査》				◎	◎			
		7	●衣料と食品 [実験・観察] 繊維の合成				○	○	○		
		7	4	●ヒトの生命現象 [実験・観察] DNAモデルの製作				○	○		○
	8	4	●ヒトの生命現象				○	○	○		
		9	1	《前期期末考査》				◎	◎		
		7	●微生物とその利用 [実験・観察] 微生物の観察				○	○	○		
後期	10	8	●熱の性質とその利用 [実験・観察] 比熱の実験				○	○	○	授業参加・提出課題 授業参加・提出課題 定期考査 授業参加・提出課題 授業参加・提出課題 定期考査 授業参加・提出課題	
		11	7	●光の性質とその利用 [実験・観察] 屈折・全反射の実験				○	○		○
		1	《後期中間考査》				◎	◎			
	12	6	●自然景観と自然災害 [演習] DO HUG(避難所運営ゲーム)				○	○	○		
		1	4	●太陽と地球				○	○		○
		2	3	●これからの科学と人間生活				○	◎		◎
	1	1	《後期期末考査》				◎	◎			
		3	4	●これからの科学と人間生活				○	◎		◎
		合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他											
◎授業の受け方 ・毎回必ず教科書、ノート、副教材、タブレット端末を用意しましょう。 板書した内容を理解しながら、ノート(プリント)に書き写すようにしてください。 ・基本的な計算に不安を感じている人は、小学校～中学校までに習った計算を復習してください。また、これから数学で習う計算もしっかりと取り組みましょう。 ・わからない箇所はわからないままにせず、授業後すぐに質問しましょう。 ◎家庭学習の仕方 ー予習ー ・教科書に目を通し、次に学習する内容が日常生活や身の回りでおこる現象に関連しているかどうかを考えてみてください。 ー復習ー ・授業で学習した内容を思い出しながら、教科書とノートを見返して重要な点を自分なりに整理しましょう。 知識の整理ができれば、副教材で問題演習をし、理解できているかを確認しましょう。 わたしたちは様々な科学技術への恩恵を受けながら生活しています。その原理に思いを馳せていきましょう。											

教科	外国語	科目	英語コミュニケーション基礎	年次	1	単位数	2	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	高校マスターノート英語 e-Learning (ICT教材)								
科目の目標	Can-Doリストに基づく								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的な話題について、書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。			・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えている。			・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自立的に英語を用いて伝えようとしている。		
評価の算出	・定期考査 ・小テスト（発音・文法）			・定期考査 ・課題			・課題 ・提出物 ・振り返り		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前期	4	1	自己紹介、オリエンテーション					○	取り組み
		2	名詞の単数形・複数形	3 1冊の本、2冊の本	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
	5	3	be動詞 現在形 1～2	4 高校生です 5 本があります	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
		2	一般動詞 1～2	6 野球をします 7 好きですか	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
	6	3	助動詞 1～2	8 泳ぐことができます 9 泳ぐことができるだろう	◎ ◎	◎ ◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
		1	定期考査			◎	◎		定期考査
	7	2	疑問詞	10 何ですか	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
		2	命令文	11 勉強しなさい	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
	8	2	be動詞 過去形	12 15歳でした	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
		6	一般動詞 過去形 1～3	13 サッカーをしました 14 持っていました 15 勉強しましたか	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
後期	9	1	定期考査			◎	◎		
		3	進行形 1～2	16 歌っているところです 17 サッカーをしていました	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
	10	3	形容詞と副詞の比較変化 1～2	18 月より大きい 19 同じくらいじゃうす	◎	◎	○	取り組み、課題、小テスト	
		6	現在完了 1～3	20 掃除し終えたところです 21 パンダを見たことがあります 22 雨が降り続いています	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
	1	5文型 1	23 文の要素 ★	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト		
		1	5文型 2	24 S・V・O・C ★	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
	4	受け身形 1～2	25 多くの人々によって愛される 26 夏男と名づけられました	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト		
		2	現在分詞と過去分詞の形容詞的用法 27 泳いでいる少年	◎	◎	◎	小テスト 取り組み、課題、小テスト		
	12	1	定期考査			◎	◎		小テスト
		2	不定詞	28 本を読むために	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
	2	2	動名詞	29 英語を話すこと	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
		2	接続詞	30 そして・しかし・というのは	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
	1	4	関係代名詞 1～2	31 ギターを弾く友だち 32 あなたが会った少年	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
		2	関係代名詞の非制限用法	33 二人の息子がいる	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
	2	2	関係代名詞 what	34 ほしかったものは新しい車です	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
		2	句、節を指す it	35 遊ぶことは危険です ★	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
	3	2	過去完了	36 住んでいました ★	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
		2	関係副詞	37 私が生まれた場所 ★	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト	
2	2	仮定法	38 家にいたでしょう ★	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト		
	2	分詞構文	39 歌を歌っていた ★	◎	◎	◎	取り組み、課題、小テスト		
1	定期考査			◎	◎		定期考査		
	合計	70	※★マークはアクティビティ無し						
学 習 方 法 ・ そ の 他									
【学習方法】 ・授業では、教材（英語マスターノート[増進版]）を使います。 ・タブレットを毎時間持参してください。 ・家庭学習がとて大切にります。タブレットを用いて計画的に学習しましょう。 ・英語コミュニケーション基礎は、中学校の復習から始まります。中学校のとき、英語が苦手だった人も新たな気持ちで学び直しましょう。 ・タブレットで出る課題や提出物が非常に多いです。絶対に提出してくださいね。									

教 科	保健体育	科目	体育	学年	1	単位数	3	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	なし								
科目の目標	運動の合理的・計画的な実践を通して知識を深めるとともに技能を高め、楽しさを深く味わうことができるようにする。 自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、公正、協力、責任、参画、安全などに対する意欲を高める。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	運動の考え方や技の名称、行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解できているか。 運動の特性や魅力に応じた楽しさを味わい、技能や動きなどを高めることができたか。			グループやチーム、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できているか。また、取り組みから得た知識・技能をまとめることができているか。			運動に主体的に取り組み、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしているか。		
評価の算出	A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。			A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね、達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子や発表、資料の完成度の水準が低い。			A：積極的に活動に参加し、役割以上に取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション【1】					○	小テスト 観察・新体力テスト換算表 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・長距離走換算表 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 小テスト 小テスト 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート
		2	体育理論【2】：オリエンテーション・①スポーツの始まりと変遷			○	○	○	
		5	集団行動・新体力テスト【8】			○	○	○	
		6	体づくり運動：体ほぐし運動・縄跳び【6】			○	○	○	
		6	陸上競技：長距離走【5】			○	○	○	
		12	球技Ⅰ 男子：ソフトボール 女子：バスケットボール【12】			○	○	○	
		8	球技Ⅰ 男子：バスケットボール 女子：ソフトボール【12】			○	○	○	
		9	体育理論【2】：②文化としてのスポーツ			○	○	○	
		5	③オリンピックとパラリンピックの意義			○	○	○	
後 期	10	5	男子：柔道 女子：ダンス【5】			○	○	○	観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 小テスト 小テスト 小テスト
		11	カーリング【11】			○	○	○	
		3	救命講習会【3】			○		○	
		10	器械運動：マット運動【10】			○	○	○	
		12・1	球技Ⅱ 男子：卓球 女子：バドミントン【10】			○	○	○	
		2・3	球技Ⅱ 男子：バドミントン 女子：卓球【10】			○	○	○	
		3	体育理論【3】④スポーツが経済に及ぼす効果			○	○	○	
			⑤スポーツの高潔さとドーピング			○	○	○	
			⑥スポーツと環境			○	○	○	
合計	105								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用して下さい。 ※屋外用指定運動靴には、使用前までに『名前』を必ず記入するようにお願いします。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ・「わかった、できた」を目指した授業を展開します。運動技能の得意・不得意に関わらず意欲を持って臨んで下さい。 ◎提出物について ・『授業課題』をタブレットを活用して配布します。課題の指示を確認し、提出期限を守ることを大切にして下さい。 ・「思考・判断・表現」の評価対象になります。 ◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内で運動技能テスト（スキルテスト）及び運動への理解度テスト（ペーパーテスト）を実施します。 ◎カーリングについて ・わからないみどりスポーツパークで2回実施します。詳しくはガイダンスを実施します。 ◎体育理論の実施時期は、単元の進行状況によって変更する場合があります。									

教 科		保健体育		科目	保健		学年	1		単位数	1		必修	
使用教科書		現代高等保健体育（大修館書店）												
使用副教材		現代高等保健体育ノート（大修館書店）												
科目の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。												
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		個人及び社会生活における健康・安全についての知識を身に付け、その役割について理解できているか。				健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できているか。				自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、実生活と結びつけて総合的に捉えようとする態度が身についているか。				
評価の算出		・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。				・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。				・授業参加状況 ・提出物の内容 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。				
年 間 の 学 習 計 画											評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容						①	②	③			
前 期	4	3	オリエンテーション(1) 健康の考え方と成り立ち(1) 私たちの健康のすがた(1)						○	○	○	・観察による評価		
	5	3	生活習慣病の予防と回復(1) がんの原因と予防(1) がんの治療と回復(1)						○	○	○			
	6	4	運動と健康(2)		食事と健康(1)		休養・睡眠と健康(1)		○	○	○			
	7	2	喫煙と健康(1)		飲酒と健康(1)				○	○	○			
	8	2	薬物乱用と健康(1)		精神疾患の特徴(1)				○	○	○			
後 期	9	4	精神疾患の予防(1) 前期期末考査・返却(2) 普通救命講習(1)						○	○	○	・定期考査 ・ノート提出		
	10	4	精神疾患からの回復(1) 現代の感染症(2) 感染症の予防(1)						○	○	○			
	11	4	性感染症・エイズとその予防(2) 健康に関する意思決定・行動選択(1) 健康に関する環境づくり(1)						○	○	○			
	12	3	事故の現状と発生要因(1) 安全な社会の形成(1) 交通における安全(1)						○	○	○			
	1	2	応急手当の意義とその基本(1) 日常的な応急手当(1)						○	○	○			
	2	3	心肺蘇生法(1)		後期期末考査・返却(2)				○	○	○			
	3	1	高等学校保健についてのまとめ(1)						○	○	○	・観察による評価		
合計		35												
学 習 方 法 ・ そ の 他														
◎授業の受け方 ・教科書/ノート/タブレットを用意してください。 ・基本的知識を理解して課題解決するために、積極的に発言したり、グループ活動に参加することが大切です。 ・形態は一斉、グループ学習、ペアワーク、実験など様々です。ねらいを理解して取り組みましょう。 ◎定期考査について ・前期期末考査と後期期末考査で実施します。出題範囲が広がりますので計画的に家庭学習に取り組んで下さい。 ◎ノート提出について ・各期考査に合わせて、学習ノートの提出があります。コツコツ取り組みましょう。 ◎救命救急法実習について ・校内消防署の救急救命士のご指導のもと、心肺蘇生法とAEDの使い方を学びます。														

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	年次	1	単位数	2	選択	
使用教科書	MOUSA1（教育芸術社）								
使用副教材	なし								
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、社会や生活の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる異質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ②自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 ③主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作などで表している。			音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことこのかかわりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。			音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
評価の算出	授業中の様子や提出記録物の内容、実技、小テストの実施に加え、単元ごとに設定される目標をどれだけ達成しようとしているかという観点で評価を付けます。								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション						授業での取り組みの様子、実技テストでの演奏、鑑賞の際の記入シートや小テストなどから成績を付けます。
		6	【歌唱】校歌、日本歌曲			◎	○	○	
	5	5	【楽典】音名・音符・拍子・強弱			◎	○	○	
	6	3	【鑑賞】音とイメージ			○	◎	○	
	7	4	【歌唱・鑑賞】英語の歌			◎	○	○	
	8	4	【歌唱】イタリア歌曲			◎	○	○	
	9	3	【歌唱】ドイツ歌曲			◎	○	○	
後 期	10	4	【音楽史】作曲家			○	◎	○	
	11	3	【鑑賞】オーケストラ			○	◎	○	
		3	【歌唱】季節の歌						
	12	3	【器楽】トーンチャイム			◎	○	○	
		10	【器楽】アルトリコーダー			◎	○	○	
	1	8	【歌唱】合唱			◎	○	○	
	2	3	【鑑賞】映画・ゲーム音楽			○	◎	○	
	3	10	【創作】音素材			○	◎	○	
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
①授業でアルトリコーダーを使用する単元があります。中学校時に使用したもので構いませんので、手元にあるかを確認してください。ない場合は別途購入してもらいます。 ②音楽が得意でも苦手でも、真剣に取り組む姿勢が大切です。一生懸命に取り組んでください。									

教科 科		芸術 科目	美術Ⅰ	年次	1	単位数	2	選択		
使用教科書		美術1（光村図書出版）								
使用副教材		絵の具セット、スケッチブック等								
科目の目標		美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。								
評価の観点		① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。		造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいるかどうか。また、美術を愛好する心情・感性、美術文化への親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が養われているかなど。				
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③	
前 期	4	1	オリエンテーション 1年間の学習や購入した画材について説明します。					○	各単元毎に目標が描かれた授業計画表を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品、練習課題から評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文の他、制作途中のアイディアスケッチや振り返り・自己評価に書かれたことも参考に評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、宿題・その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかここに含まれます。	
	5	5	レタリング スケッチブックに貼る名前のレタリングを行います（GWに宿題有り）			○	○	○		
	5 6	4	人物クロッキー クロッキーを通して、観察力や対象を単純な線に置き換える能力を養います。			○	○	○		
	6	4	色の学習 色についての基礎知識を学び、狙った色の再現などを通して混色の原理などを学びます。			○	○	○		
	6 8	12	ポスターデザイン 各種コンクールに出品するポスターをレタリングや色の知識を用いてアクリル絵の具で描いていきます。			○	○	○		
	8 9	12	シルクスクリーン シルクスクリーンの原理や目的に沿ったデザインの考え方を制作をとおして学びます。			○	○	○		
	後 期	10 11	14	模刻 レプリカ制作を通し、造形や色彩の基礎を学びます。			○	○		○
		12 3	18	デッサン基礎 構図の取り方、明暗での立体感の表し方など、デッサンをするうえでの基礎を学びます。			○	○		○
		合計		70						
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○学習方法 1つの課題は概ね10～14時間かけて制作します。その中に構想する時間が含まれます。計画的に制作しましょう。 作品はすべて提出してもらいます。欠席した際の補習は放課後に行います(自己申告制)。作品は単元の最終日までには必ず提出してください。 チャイムと同時に授業を始めます。机・イス、道具の準備は休み時間に済ませましょう。 ○その他 入学後、授業で使用する画材を指定店（北海ビジネス）で購入してもらいます。費用は8,000円程度かかります。 購入した画材は2年生以降でも選択教科によっては使用します。大切に使用しましょう。 配布したプリントを保管するクリアファイルは各自で用意をして下さい。										

教科 科		芸術	科目	書道Ⅰ	年次	1	単位数	2	選択	
使用教科書		書Ⅰ（光村図書）								
使用副教材		なし								
科目の目標		書道の幅広い活動を通して、書に対する見方・考え方を働かせ、生活や社会の文字や書、書の伝統と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。			書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。			感性を高め、書の伝統と文化と豊かに関わり、書の幅広い活動に主体的に取り組もうとしている。		
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	6	○書写から書道へ…姿勢と執筆法、用具・用材などについての学習				◎	○	◎	各単元毎に目標を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品により評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文・振り返り・自己評価により評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかここに含まれます。
	5	6	○漢字の書…楷書の古典（孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘） 全道学校書道展出品				◎	○	○	
	6	8	○漢字の書…楷書の古典（雁塔聖教序・顔氏家廟碑）				○	◎	○	
	7	4	○漢字の書…楷書の古典（牛橛造像記・鄭義下碑）				○	◎	○	
	8	4	○漢字の書…行書の古典（蘭亭序・風信帖） 書の甲子園出品				○	○	◎	
	9	8	○篆刻				◎	○	○	
後 期	10	8	○仮名の書…平仮名の単体・連綿の学習 ○仮名の書…仮名の美、散らし書き（高野切第三種）				◎	○	○	
	11	4	○漢字仮名交じりの書…①楷書と仮名の調和				◎	○	○	
		4	②行書と仮名の調和				○	○	◎	
	12	6	③名筆を生かした表現/紙面構成の工夫 全国学生書道展出品				○	○	◎	
	1	4	○書道鑑賞…文字の変遷や仮名の成立、書美の構成要素について学習				○	○	◎	
	2	4	○漢字仮名交じりの書…名作や詩歌を題材に草稿をもとに制作				○	◎	◎	
	3	4	○書の交流と鑑賞…作品集をつくる				○	○	◎	
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【授業での約束事】 ・ 集中して書く時は集中して書く、他人と交流する時は精一杯やる。メリハリをつけて授業に臨みましょう。 ・ 授業開始のチャイムと同時に授業を始めるので、それまでに準備を完了させておくこと。 毛氈、墨池、文鎮、筆、用紙、教科書等、その他必要であればその都度指示を出します。 ・ 提出する全ての作品は年度末の単元で必要となります。提出する前に必ず写真を撮ってください。										

教 科			家庭	科目	家庭基礎	年次	1	単位数	2	必修													
使用教科書			Agenda家庭基礎 実教出版																				
使用副教材			生活学Navi 資料＋成分表 2026 実教出版																				
科目の目標			生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。																				
評価の観点			① 知識・技能				② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度														
評価の趣旨			人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係わる技能を身に付けている。				生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。														
評価の算出			【知識・技能】テスト、実習 【思考・判断・表現】テスト、観察、ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】観察、ワークシート、実習																				
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点		評価方法													
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②		③												
前 期	4	1	オリエンテーション					◎	◎	◎	ワークシート、実習 テスト ワークシート、実習												
		5	6章 衣生活 一選んで着るー																				
	5	5	6章 衣生活 一選んで着るー （被服実習）									◎	◎	◎	ワークシート、実習 テスト ワークシート、実習								
		1	<前期中間考査>																				
	6	4	6章 衣生活 一選んで着るー （被服実習）													◎	◎	◎	ワークシート、実習				
		4	1章 自分・家族 一多様化した社会に生きるー																				
	7	1	1章 自分・家族 一多様化した社会に生きるー																	◎	◎	◎	ワークシート、実習
		3	2章 子ども 一子どもと生きるー																				
	8	4	2章 子ども 一子どもと生きるー																				
9	5	3章 高齢者 一高齢者と生きるー																					
9	3	4章 社会福祉 一支えあいともに生きるー																					
後 期	10	8	5章 食生活 一楽しく安全に食べるー					◎	◎	◎	ワークシート、実習 テスト												
	11	6	5章 食生活 一楽しく安全に食べるー（調理実習）									◎	◎	◎	ワークシート、実習								
		1	8章 消費・環境 一消費社会を生きるー																				
		1	<後期中間考査>																				
	12	6	8章 消費・環境 一消費社会を生きるー（金融講話）													◎	◎	◎	ワークシート、実習				
		1	7章 住生活 一人間らしく住むー																				
	2	4	7章 住生活 一人間らしく住むー																				
3	4	7章 住生活 一人間らしく住むー																					
合計		70																					
学 習 方 法 ・ そ の 他																							
《授業について》 ・家庭生活の充実と向上を目指し、さまざまな視点から家庭生活について学びます。自分の生活と関連づけて各分野の学習に取り組みましょう。 《定期考査》 ・年2回実施（前期中間、後期中間）																							

教 科	商業	科目	情報処理	年次	1	単位数	3	必修		
使用教科書	情報処理 Prologue of Computer 新訂版（実教出版）									
使用副教材	学習と検定 全商情報処理検定テキスト 情報処理 学習と検定 全商情報処理検定テキスト 情報基礎 令和8年度版 全商ビジネス文書実務検定 模擬試験問題集 3級 全商情報処理検定試験模擬問題集 情報処理 全商情報処理検定試験模擬問題集 情報基礎									
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。									
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	現代社会における情報に関する知識・技術の重要性を理解した上で授業に臨めている			情報を取扱う際の課題について、科学的な根拠に基づいて解決しようとしている。			情報を主体的に取り扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。			
評価の算出	・授業に取り組む姿勢と態度 ・定期考査 ・実習における取り組みと成果 これらを念頭に、上記3観点に基づき総合的に評価する。									
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③	
前 期	4	6	ガイダンス	・年間学習計画・プログラミング室の使い方				○	○	ワークシート 考査 実技テスト・課題 実技テスト・課題 実技テスト
			企業活動と情報処理	・情報処理の重要性・情報モラルと法規等						
	5	10	コンピュータシステムと 情報通信ネットワーク	・コンピュータシステムの概要 ・情報通信ネットワークのしくみと構成など			○	○	○	
	6	12	情報の集計と分析	・ビジネスと統計・関数を利用した表の作成			○	○	○	
	7	6	情報の集計と分析	グラフの作成			○	○	○	
	8	6	情報の集計と分析	表計算ソフト 利用実習			○	○	○	
後 期	9	12	情報の集計と分析 期末考査	総合実習			○	○	○	実技テスト 実技テスト 実技テスト 課題制作 課題制作 課題制作 考査・課題 課題
	10	12	ビジネス文書の作成	・ビジネス文書と表現 ・基本文書の作成				○	○	
	11	10	ビジネス文書の作成	・基本文書の作成 ・ビジネス文書応用			○	○	○	
	12	9	プレゼンテーション	・プレゼンテーション技法			○	○	○	
	1	6	プレゼンテーション	・ビジネスにおけるプレゼンテーション ・総合演習			○	○	○	
	2	10	様々なソフトウェアの活用 後期期末考査	・G I Fアニメーション制作 ・写真編集			○	○	○	
	3	6	報告書の作成							
				1年間のまとめ			○	○	○	
合計		105								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
・ 普段の授業を大切にする。復習をこまめにする。 ・ 本授業では、全商情報処理検定試験3級および全商ビジネス文書実務検定試験3級の取得を一目標とする。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ プログラミング室で授業を行うため、パソコンその他情報機器の破損等の無いよう取り扱いに十分留意すること。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、必ず期日までに提出する。 ・ 情報処理学習の基礎科目であり、2年次の「ソフトウェア活用」「プログラミング」につながる重要な科目である。										

教科 科		商業	科目	ビジネス基礎	年次	1	単位数	2	必修	
使用教科書		ビジネス基礎（実教出版）								
使用副教材		ビジネス基礎 準拠 問題集 令和8年度版 全国商業高等学校協会主催 商業経済検定模擬試験問題集 3級 ビジネス基礎（実教出版） 令和8年度版 全国商業高等学校協会主催 ビジネス計算実務検定試験 模擬試験問題集 3級（実教出版）								
科目の目標		・ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につける。 ・ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ・ビジネスを適切に展開する力の向上を目指し自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身につけている。			様々な知識・技術を活用し、市場の動向やデータなど根拠に基づいて解決することを考えている。			ビジネスを適切に展開する力の向上を目指し、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。		
評価の算出		定期考査、提出物・授業参加、その他、各分野ごとに定める評価観点ごとに総合的に評価する。								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	6	ガイダンス 商業の学習とビジネス							日々の取り組み・成果物 定期考査
	5	6	・いざ、ビジネスの社会へ ・私たちの社会とビジネス ビジネスとコミュニケーション ・コミュニケーション ・ビジネスマナー ・情報の入手と活用				○	○	○	
	6	8	経済と流通の基礎 前期中間考査 ・経済の仕組みとビジネス ・経済活動と流通				○	○	○	
	7	5	さまざまなビジネス ・ビジネスの種類 ・小売業 ・卸売業 ・金融業 ・物流業 ・情報通信業				○	○	○	
	8	5					○	○	○	
	9	9	企業活動の基礎 前期期末考査 ・ビジネスと企業 ・マーケティングの重要性 ・財務諸表の役割 ・企業活動と税				○	○	○	
	9	9					○	○	○	
後 期	10	8	全商ビジネス計算実務検定対策				○	○	○	日々の取り組み・成果物 定期考査
	11	8	全商ビジネス計算実務検定 後期中間考査				○	○	○	
	12	5	ビジネスと売買取引 ・売買取引の手順 ・代金決済				○	○	○	
	1	4	ビジネス計算、検定試験対策 全商商業経済検定試験 ・ビジネス計算の基礎、ビジネス計算の応用				○		○	
	2	4	身近な地域のビジネス 後期期末考査 ・さまざまな地域の魅力と課題				○	○	○	
	3	2	1年間のまとめ				○	○	○	
	合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
・ 普段の授業を大切にする。予習、復習をこまめにする。 ・ 本授業では、全商ビジネス計算実務検定試験3級取得を目標とする。 ・ 本授業では、全商商業経済検定試験3級取得を目標とする。 ・ 商業科目群の基礎科目であることから、極力欠席をしない。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに平常評価にも関わるので十分注意する。										

教 科		商業	科目	簿記	年次	1	単位数	4	必修		
使用教科書		新簿記 （実教出版）									
使用副教材		反復式 学習と検定 簿記問題集 全商3級 改訂版 令和8年度版 全商簿記実務検定模擬試験問題集 3級									
科目の目標		・簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・取引の記録と財務諸表の作成方法の妥当性と課題を見だし、科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 ・企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に取り組む態度を養う。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		簿記の基礎的な知識や技術を身につけているか。また、簿記のしくみや手順、貸借対照表・損益計算書などの作成方法を理解できたか。			簿記の基礎概念や基礎的・基本的な知識、技術などを活用し、適切な思考・判断・表現する能力を身に付けているか。			自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けているか。			
評価の算出		定期考査、提出物・授業参加、その他、各分野ごとに総合的観点にて評価する。									
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	4	ガイダンス 簿記の基礎		簿記実習室の使い方						提出物・日々の取り組み 提出物・日々の取り組み 提出物・日々の取り組み 提出物・日々の取り組み 定期考査 提出物・日々の取り組み 提出物・日々の取り組み 提出物・日々の取り組み 提出物・日々の取り組み 定期考査
	5	16	・簿記の基礎		・資産・負債・純資産と貸借対照表			○	○	○	
			・収益・費用と損益計算書		・取引と勘定			○	○	○	
			・仕訳と転記		・仕訳帳と総勘定元帳			○	○	○	
	6	9	・試算表		・精算表		・決算	○	○	○	
	7	15	前期中間考査					○	○		
			取引の記帳（その1）		・現金・預金などの取引		・商品売買の取引	○	○	○	
			・掛け取引		・手形の取引			○	○	○	
			・その他の債券・債務の取引、固定資産の取引					○	○	○	
・個人企業の資本の取引			・販売費と一般管理費、税金の取引			○	○	○			
9	13	決算（その1）		・決算整理（その1）		・8桁精算表	○	○	○		
後 期	10	18	会計帳簿と帳簿組織		・会計帳簿			・伝票の利用	○	○	○
					・会計ソフトウェアの活用				○	○	○
			取引の記帳（その2）		・特殊な手形の取引		・有価証券の取引	○	○	○	
	11	18	後期中間考査		・本支店会計			・最近の実務に広がる取引	○	○	
			決算（その2）		・決算整理（その2）				○	○	○
			全商簿記実務検定試験対策								
	12	17	全商簿記実務検定試験						○	○	
					・株式会社の取引と財務諸表				○	○	○
			2級の内容						○	○	
1	4	後期期末考査						○	○		
		2級の内容		・1年間のまとめ				○	○	○	
合計		140									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
・ 普段の授業を大切に。復習をこまめにする。 ・ 本授業では、全商簿記実務検定試験3級の取得を目標とする。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに平常評価にも関わるので十分注意する。 ・ 簿記会計学習の基礎科目であり、2年次の「財務会計Ⅰ」の授業につながる重要な科目である。											

教 科		総合	科目	稚内学	学年	1	単位数	1	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		稚内観光マイスター初級テキスト								
科目の目標		稚内市の地理的特徴や発展の歴史、文化的特徴等に関する基礎的内容を学習することにより、郷土に対する理解を深め、郷土に対する愛情と貢献意欲を高めることで、地域の担い手となる人材の育成を図る。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		稚内の歴史、風土、文化、産業に関する幅広い知識を得ることができる。また、地域の諸問題についての確に理解し、それを他者への確に説明することができる。			地域の歴史と現状を知ること、今後の稚内の在り方について積極的に考えることができる。			地域理解の必要性を重視し、積極的に授業に取り組むことができる。		
評価の算出		上記に示した評価の観点を踏まえ、各単元の評価を行います。単元毎の評価の観点は、下記のとおりです。前期定期考査および稚内観光マイスター検定試験の結果など客観的材料はもとより、探究活動に臨む姿勢とレポートの完成度、郷土研究発表会での発表内容等、多面的に評価を行います。								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション				○	○	◎	①知識・技能 主に発表資料の創意工夫、期末考査と観光マイスター検定の結果から評価します。 ②思考・判断・表現 主に探究活動中の様子や、発表内容から評価します。地域・文化・歴史への考察が深さや、地域の発展や課題解決への意欲はここで評価されます。 ③関心・意欲・態度 主に授業への積極性や、グループ活動での行動など、普段の様子で評価します。
		2	稚内市の概要				◎	○	◎	
	5	1	宗谷岬周辺				◎	○	◎	
		1	稚内空港周辺				◎	○	◎	
	6	1	稚内公園				◎	○	◎	
		1	ノシャップ岬・稚内西海岸				◎	○	◎	
	7	2	稚内港				◎	○	◎	
		1	稚内のイベント・アクセス				◎	○	◎	
	8	2	味覚				◎	○	◎	
		2	外部講師による講演会					○	◎	
9	2	自然				◎	○	◎		
	1	前期期末考査				◎	◎			
後 期	10	1	産業・文化				◎	○	◎	
		1	稚内観光マイスター検定について事前学習				○	○	◎	
	11	2	郷土研究（テーマ設定）				○	○	◎	
		4	郷土研究（資料収集・聞き取り調査等）				○	○	◎	
	1	4	郷土研究（発表資料作成）				◎	◎	◎	
		4	郷土研究発表会				◎	◎	◎	
	3	2	まとめ・振り返り				◎	◎	◎	
合計	35									
学 習 方 法 ・ そ の 他										
稚内観光マイスター推進委員会が発行する「稚内観光マイスター ー初級テキストー」を用いて授業を進めていきます。また、授業に関する別紙資料も数多く配布されますので、それらを利用して学習することが基本となります。10月には「稚内観光マイスター検定初級」を全員受験しますので、その合格を学習の目標とするのも良いでしょう。 しかし、この授業は単純に学習内容を理解、暗記すれば良いというものではありません。稚内に生まれ育った私たち一人ひとりが稚内への理解と愛情を深め、将来にわたって郷土に自信と誇りを持ち続ける礎を築くことが何よりも大切なことです。そのため、より積極的に授業に臨むことが求められますし、そうしなければこの授業の意義が大きく損なわれることになります。 また、年度末には「郷土研究発表会」が予定されています。この発表会は、各グループごとにテーマを決め、それに沿って独自に調査研究を行いその成果を発表するもので、本授業のメインイベントです。この発表会に向けて、年度当初から興味関心の持てる内容について特に意識して学習しておくとも良いでしょう。 この授業を通じて、稚内への理解と愛情をより深められることを期待しています。										